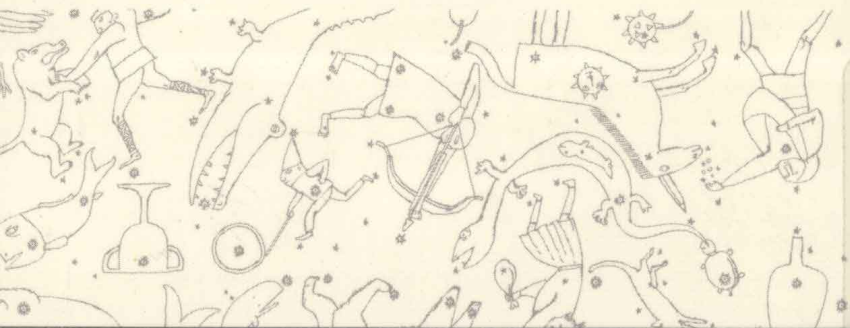




野尻抱影の本
2
星の文学誌



野尻抱影の本

2

星の文学誌

筑摩書房

野尻抱影の本
2
星の文学誌

一九八九年四月二十五日 第一刷発行

著者 野尻抱影
編者 原 恵

発行者 関根栄郷

印刷 三松堂印刷
製本 鈴木製本所
発行所 筑摩書房

東京神田小川町二ノ八
振替東京六—四—一二三
電話東京元—六三(営業)
三六—七三(編集)

乱丁・落丁本の場合は、御面倒ですが、小社読者保証に
御送付下さい。送料小社負担にてお取替えいたします。

星の文学誌*目次

I	古代ギリシャの詩	3
	ホメーロス詩抄	4
1	円盾の文学	4
2	《イーリアス》の星	7
3	《オデュッセイア》の星	10
	《神神讃歌》抄	14
1	ヘルメース讃歌	15
2	パアン讃歌	16

3	アレース讃歌	18
4	ディオスクーロイ讃歌	19
5	アフロディーテー讃歌	20
6	アルテミス讃歌	21
	ヘーシオドス詩抄	23
1	小伝	23
2	著作	25
3	《仕事と日日》	27
4	《諸神系譜》	51
5	《ヘーラクレースの盾》	58
6	《名婦鑑》	63
7	《アストロノミア》	67
8	《キーローンの教訓》	71

II	古代ローマの詩	73
----	---------	----

	オウィディウス詩抄	74
--	-----------	----

1	《祭事暦》の星	74
---	---------	----

2	《変形録》抄	89
---	--------	----

III	イギリスの詩	93
-----	--------	----

	英詩に現れたる星	94
--	----------	----

	小序	94
--	----	----

1	大熊座・北斗七星	95
---	----------	----

2	小熊座・北極星	107
---	---------	-----

3	オリオン座	114
---	-------	-----

4	犬星シリウス	118
5	プライアデーズ星団	122
6	ハイアデーズ星団	130
7	カシオピア座・アンドロミダ座	133
8	牛飼座	138
9	双子座	141
10	金牛宮・白羊宮その他	146
	英詩に現れたる金星	149
	宵の明星・暁の明星	149
	チヨースアの星	174
1	天文詩人チヨースア	174
2	マーズ神哀歌	177
3	トロイラスとクリセイデ	181

4	百鳥の集い	185
5	誉れの宮	191
6	星辰儀考	196
	カンタベリー物語(続チヨースアの星)	207
	序詩	207
1	武家の物語	216
2	粉屋の物語	223
3	弁護人の物語	227
4	バスの女房の物語	233
5	扈従の物語	236
6	大地主の物語	238
	シェイクスピアの星	242

IV	古代中国の詩	253
----	--------	-----

	詩経のこと	254
--	-------	-----

1	《国風召南の星》	255
---	----------	-----

2	大雅・小雅	281
---	-------	-----

	春秋・国語抄	288
--	--------	-----

1	陳亡国記（周語）	289
---	----------	-----

2	晋ノ文公放浪記（晋語）	296
---	-------------	-----

V	日本古典の星の名	305
---	----------	-----

	星神の和名	306
--	-------	-----

	古事記・日本紀の御統	314
--	------------	-----

丹後風土記の星	322
宇治拾遺・今昔物語の星	326
平治物語の星	329
お伽草子の星	335
太平記の星	340
安井春海の星名	344
二十八宿の訳名	349
解説『星の文学誌』によせて	359
原恵	

「イギリスの詩」の英語式発音表記一覧表
「チョーサーの星」・「カンタベリー物語」
引用詩句註

星の文学誌

——野尻抱影の本？

装幀

安野光雅

I

古代ギリシャの詩

ホメーロス詩抄

ホメーロスは、前九世紀ごろ、小アジア西海岸のキオス島に生れた盲目の吟遊詩人として伝わっているだけである。しかもギリシャ最古の叙事詩《イーリアス》《オデュッセイア》の作者として天目の如く光り輝いている。

私は学生の昔初めて《イーリアス》を読んだ。そしてトロイア戦争を歌った剛健かつ悲壮なパトスや、人物の性格がみな高邁なことなどに打たれたのだが、同時に、この盲詩人が戦塵の間にきらめく円盾を星、とくに三度までシリウスの光に擬しているのに驚いた。町の学徒としてホメーロスの星を漁り、考証してみたいと思った。

これは星の文学であるとともに、稀有な盾の文学と名づけていい。しかも円盾をかざして切り結ぶのが華やかなギリシャの若武者とトロイアの貴公子たちである。

1 円盾の文学

まず、星への前奏曲として、《イーリアス》の円盾の叙述を読んでみる。すると、戦闘のシーンでは、皮、または青銅を張った円盾と円盾とが相搏ち、トネリコか白楊ポプラの柄の槍と槍とを投げ合い、突き合い、または短い銅剣で切り合っている。私は、もしこの民族のテーマ音楽を考へるなら、「カッカッ」と鳴る円盾の音を主調とすべきだと思った。オリュムポスの高御座ミクラで両軍の戦況いかにと見下ろすズエーウスが、そもそも「不壊ふえの盾持つ」を形容詞エッセツトとしている。そして、第十一篇（三二—四〇）、ギリシャ軍の総帥アガメムノーン出陣のくだりは、盾の文学でも無類といえる。

ついで身の隠るるばかりの、巧たくみをこらせる物ものしき大盾を取り上ぐれば、

見事なる盾のめぐりには、青銅の十すじの輪走れり。そして表面には、二十の白き錫のホズあり。中央の一つは、青黒きキュアノス（1）ゴルゴン（エナメル）なり。

そこには冠のごとく、妻バルトリツラき顔の女怪（1）ゴルゴンが恐ろしき眼を怒らせ、「恐怖（2）デイモス」と「狼狼フォボス」を伴いたり。盾よりはまた銀の綬バルトリツラ帯を垂れて、それにキュアノスの蛇が巻きつき、一つの頸より生えたる三つの頭を両側へくねらせいたり。

（1）女怪ゴルゴン 蛇髪ゴルゴンのメドゥーサで恐ろしい形相に見るものを石に化した。それで敵が畏怖するよう盾に表わされた。

（2）メドゥーサに従う魔もの。

アガメムノーンの盾に次いで、（第十八篇）の主題である《アキルレウスの盾》が有名である上に、星の文学でもある。

まず、ギリシャ軍の勇士パトロクロスが、トロイアの王子で英雄のヘクトールに殺されると、

友人アキルレウス（アキルレス）が貸した有名な甲も剥ぎ取られる（第十六篇）。アキルレウスは慟哭して復仇を誓う。その母で海神の娘テティスはヘーファイストス（鍛冶の神）の仕事場へ行き、わが子のために盾と胄と丈夫な甲を造って下さいと、跪いて懇願する。

鍛冶の神は承諾する。二十個のフィゴが一せいに神の意のままにルツボへさまさまの力の風を吹き送る。

その火へ彼れは、熔けることなき青銅や、錫や、貴き金や銀を投げこみたり、終わるや、台の上に大なるカナトコをすえ、片手に頑丈なるハンマーをつかみ、も一つの手にヤットコをつかみたり。

手初めにまず、巨きく、かつ強き盾を造り、隙もなく技巧をこらしたり。めぐりにきらめく輪ぶちに、三重の輝く縁をつけたり。それに銀の吊紐を結び、また五層の皮を胴に張りたり。終わりに、盾の表面に、工匠の手練れもて多くの飾り模様を刻みたり。

そこには、大地、大空、海、また倦むことなき太陽と、円く満ちたる月を表わし、また、王冠のごとく天蓋を取り巻くすべての星々―プレイアダス、ヒュアダス、荒あらしきオーアリーオン、および車ともよばれて、恒に環なす行路をめぐりつつ、オーアリーオンを見張り、これのみは絶えてオーケーアノスの水に浴みすることなきアルクトス（大熊）を表わしたり。

(1) オーアリーオン ホメーロス以来、ピンダロス、コリンナ（女流詩人）、カルリマコスもこれに随い、やがて詰まって「オーアリーオン」となる。北ギリシャでは北斗が地平に低くなるとオリオンが東に昇り、大熊は天の獵人を恐れて、大海で浴みもしなかった。なお、別章ヘーシオドスの《農耕訓、航海訓》参照。

さて、このあと、ヘーファイストスは盾の表面に二つの都とその生活の種々相を刻む。終わって、アキルレウスの母・女神の足もとに置き、女神はそれを持ってオリュムポスから戦場のわが子のもとへ急ぐのだが、ここに星の名が幾つも現れている。それで、話を《イーリアス》の星にもどすことにする。

2 《イーリアス》の星

《Mias》ここに現れる星は、セイリオス（焼き焦がす星）——今いう大いぬ座の主星シリウスである。まず第五篇ギリシャ軍の勇士ディオメーデースが敵陣へ駆け向うときに、アテーナー女神は、彼れが抜群の誉れを立てるよう、膂力と勇気を授ける。

彼れのヘルメットと盾とは、炎の如き光を放って、⁽²⁾遅夏の星がオーケアノス（大海）の浴みより昇り、他の星々に光なからしむるにも似たり。

かかる光をさえ彼女（アテーナー）は彼れの頭と両肩より放たしめたり。そして密集するまっ只中へ送りやりたり。

(2) 「遅夏の星」はセイリオスのことである。ホメーロス時代のギリシャの暦は、春・初夏・^{セロス}晩夏・^{オボリー}冬に分たれて、夏の暑さは秋という中間の季節を経ずに、すぐと冬に移った。英語の dog-days（盛暑期）はオボーレに当たる。この晩夏の暁の星がシリウスだったのである。

つぎは第十一篇（四八三—九）で、ヘクトールがギリシャ兵に対し手勢を励ましつつ、先陣に後陣にと出沒する姿で、《イーリアス》でも絶唱であらう。——